

昭和12年7月～9月

日中戦争の開始に伴う応召事務と応召兵出発（壮行会）

『第55村・当直日誌』から抜粋・編集

■昭和12年7月26日（月）

動員事務研究会、午後2時より5時まで。

■昭和12年7月27日（火）

午後5時42分、支庁より動員下令の予報あり。直ちに吏員が急使請負人を招集し、会議室を事務室に充当して整備する。

午後9時8分、令状到着し、事務完了。急使が各受け持ち区域に向けて出発。

一切一時予定通り。午後11時、各吏員退出。兵事係2名が居残り、宿直する。

急使帰還

二区 28日午前0時5分

一区 28日午前1時9分

四区 28日午前1時19分

三区 28日午前4時15分

令状は全部令達する。

■昭和12年7月28日（水）

午後1時より議事堂において、応召並びに馬徴発事務の研究会開催。午後4時終了。

■昭和12年7月29日（木）

応召軍人家庭慰問のため、村長・在郷軍人分会長・副分会長及び軍友会副長と村内一巡する。

午後3時より議事堂で海軍動員及び馬4頭徴発事務の研究会を開催。

渡辺書記以外全員午後11時まで馬4頭の徴発に努める。

杉山書記に歩兵第28連隊への召集通知が来る。

■昭和12年7月30日（金）

応召軍人宮脇、午前8時17分の汽車で出発。

在郷軍人会分会、国防婦人会、吏員一同、その他村民有志が見送る。

応召軍人慰問のため、村長・分会長・分会副長・軍友会副長らが鑑沸・岐阜へ出発する。

午後6時より青年会館で在郷軍人一同が応召軍人送別会を開催。

■昭和12年7月31日（土）

本日午後6時より委員室で杉山氏の送別会を開催。7時10分終了。

明日、杉山氏出発に際して、吏員一同・家族で午前7時までに役場前に集合し、神社で祈願を決定。

■昭和12年8月1日（日）

杉山書記応召のため、午前8時17分の汽車で出発。

応召兵家族慰問、その他の件について村議室で打合せをする。在郷軍人分会長・副長・吏員・村長。

午後2時より常呂小学校で市街の壮行会を開催。

■昭和12年8月2日（月）雨

銃後の守りに関し、委員室で愛国婦人会・国防婦人会幹部の打合せ開催、14名出席。応召軍人歓送準備、弾丸除け千人針の準備等手配する。

■昭和12年8月3日（火）晴れ・南西の風・微風・気温30度

応召兵出発・高橋静雄外10名

午前6時30分、役場前に集合。6時40分に喇叭（ラッパ）・太鼓隊を先頭に市街を行進して常呂神社で武運長久を祈願。社前で壮行の宴を開催。

駅前で村長・在郷軍人会長・軍友会長と山田久七氏の壮行の辞があり、記念品贈呈をした後で応召兵の謝辞があり、万歳三唱・歓呼の声に送られ、8時17分の汽車で常呂駅を出発した。歓送者は三千人を超える。

*注：山田久七氏（山田本店経営・村議会議員）

*注：応召兵は旭川市の第七師団に入隊

婦人会は駅前に天幕を張り、応召兵の休憩所を設け、湯茶の接待をする一方で弾よけの千人針の調製に着手する。市街を4班に分け、終日活躍した。

書記・在郷軍人会副長・軍友会長・連合青年団副長が応召兵の見送り、並びに在郷学兵慰問のため旭川市へ出張。村長は応召兵の見送りで野付牛（注：北見）へ出張。

■昭和12年8月4日（水）晴れ・東南の風・微風

千人針の調製で婦人会が活躍。

■昭和12年8月6日（金）曇り時々晴れ・20度

婦人会が調製中の千人針をすべて終える。

■昭和12年8月7日（土）曇り午後晴れ・北西の風・和やか・19度

国防婦人会・愛国婦人会が合同で千人針修祓（しゅばつ）祈願祭を常呂神社で執行の後、応召軍人家族の慰問に関する協議会開催。出席者は、村長・収入役・書記・婦人会幹部。

引き続き、2班に分かれて家族を慰問し、千人針旗及び記念品を贈呈する。

山田久七が国防献金50円申し出、即納。

岐阜南部実行組合婦人部が国防献金6円20銭申し出、即納。

*注：応召兵

在郷軍人などが召集に応じて軍務につくこと。

*在郷軍人

平時は民間で生業に就いているが、戦時には必要に応じて召集され国防の任に就く予備役（注：現役終了者）・後備役（注：常備兵役を終えた者が服す役で、予備役の次にあたる）などの軍人。

*注：千人針 堀口清一さんの手記「千人針」（『富丘百年史』）から抜粋

…白地の手拭いより少し大きめの布に、赤い糸で一人一ヶの糸の結び玉を千個作り、お守りとして腹に巻く胸巻きのようなもの。

千結び玉は千人の女性の手によって作られる。雨の日も風の日も道ばたで、玄関先で、一軒一軒訪ねて千個の結び玉ができる。

ただ、その中で寅年生まれの女性だけには年齢の数だけ結んでもらえるという。誰が考えたか、なかなかの知恵だと感心する。

いわゆる虎は強い動物で、我が子を千尋の谷へ落としても必ず登ってきて生き延びると言われているせいだろうと思う。

一枚できあがるのに数十日はかかる女性だけの手作りのお守りであり、母親が我が子を思い、無事で帰る日を夢見て来る日も来る日も幾人もの女性が街角で庭先で結び玉を作る、あらゆるところで目にした光景でした

*注：「婦人会」は、「国防婦人会」と「愛国婦人会」のこと

【国防婦人会】「当直日誌」から

昭和12年1月8日 国防婦人会創立協議会を村長宅で開催

3月6日 常呂小学校で大日本国防婦人会常呂分会を結成、発会式挙行

国防婦人会は、割烹着と会の名を墨書した白たすきを会服として活動。出征兵士の見送りや慰問袋の作成など、銃後活動を行った。（参考：ウィキペディア）

【愛国婦人会】「当直日誌」から *愛国婦人会に関する記述は左記の1件のみ

大正12年12月16日 愛国婦人会が救護金百円也を困窮民に伝達、村長臨席。

愛国婦人会は、当初は戦没将士の遺族および廃兵の救護を目的とした。…大正6年には、軍事救護活動だけでなく、広く社会的な事業を行えるよう定款を改正した。

（参考：ウィキペディア）

※8月8日以降のこと

■昭和12年8月8日（日）

岐阜・鎧沸の応召軍人家庭慰問のため、書記1名と婦人会幹部が出向く。
応召軍人出陣壮行会開催の通知をすること並びに、出征兵・在学兵慰問実行の通知
手配をする。

■昭和12年8月9日（月）

応召軍人家庭慰問のため、収入役と婦人会幹部が手師学へ出向く。

■昭和12年8月10日（火）

在学兵、出征兵慰問のため、愛国・国防婦人会代表者が旭川へ出発。網走出張中の村
長が網走から引率。

*注：「在学兵」という言葉が何回か現れるが、何を意味するのかわ不明

■昭和12年8月13日（金）

第27連隊連隊長外1名来村。

■昭和12年8月14日（土）

午後7時16分、支庁より動員下令の予報あり。午後9時57分、支庁急使がハイヤーで
到着。応召人員4名。

急使帰着時間

第四区 午後10時27分

第三区 午前0時15分

第一区 午前5時18分

■昭和12年8月16日（月）

応召兵出発。岐阜・樋山氏の応召部隊は宇都宮歩兵59連隊。午前4時30分、村社常呂
神社に集合し、喇叭・太鼓隊で武運長久を祈願祭、壮行会を開催。喇叭・太鼓隊を先頭
に市街行進。駅前まで壮行送辞、応召兵謝辞、万歳三唱、歓呼の声に送られ午後5時40分
出発。村長が網走まで見送る。

■昭和12年8月17日（火）

応召兵・片山氏が旭川部隊に午前8時17分の汽車で出発。行事は前日と同断。

■昭和12年8月18日（水）

応召兵・工藤、本田両名が午前8時17分に出発。行事は前日同断。村長が網走まで
歡送する。

常呂小学校において未教育補充兵の教育をする。午前9時より午後3時まで。

■昭和12年8月21日（土）
村長、在郷軍人常呂分会副長、軍友会副長で出征兵家庭慰問のため鑑沸・岐阜へ出向く。

■昭和12年8月22日（日）
本日午後2時まで集まった慰問袋は52個。

■昭和12年8月24日（火）
午後11時、釧路に出張中の萩尾書記より、動員下令があった旨の電話あり。
午後11時20分、支庁より第一次予報あり。午前1時45分、正式予報に接する。支庁急使がハイヤーで午前2時54分着。応召人員8名。
急使出発、午前3時22分から28分。
急使帰着

第二区 午前5時10分
第四区 午前5時37分
第三区 午前5時58分
第一区 午前6時2分
吏員全員動員事務のため、午後11時より午前4時まで勤務。

■昭和12年8月25日（水）
舟木氏・佐藤氏は歩兵17連隊へ8月29日の入隊につき、午後9時半に自動車で遠軽へ。1泊して一番で応召。書記補も遠軽へ出張。

■昭和12年8月26日（木）
今朝8時17分で本村に出稼ぎ中の相沢氏が応召のため出発。同じく午後5時40分で横内氏出発。
応召軍人に対して千人針作製のため、国防婦人会委員が委員室で活躍。
午後6時、応召兵の〇木が都合により、27日午前8時17分で出発する旨挨拶に来場。

■昭和12年8月27日（金）
内田氏が応召のため挨拶で来場。
収入役が応召家族慰問のため、鑑沸・カキ島へ出張。
村長・在郷軍人常呂分会・軍友会代表者と共に、キナチャシナイ（注：能取）方面の応召兵家庭訪問。

■昭和12年8月28日（土）
手師学・内間氏、森実氏両君の壮行会を手師学小学校で開催。同日、午後5時のバスで森実氏出発。

■昭和12年8月29日（日）
応召中の梅田氏が午後5時12分の列車で帰村。

■昭和12年8月30日（月）
兵事関係者に対する臨時種痘を常呂病院で実施。
村長、在郷軍人常呂分会長、軍友会代表らで岐阜・川治方面の応召軍人家庭慰問をする。

■昭和12年8月31日（火）
本日午前8時17分、左記応召兵軍人が出発。行事はこれまでの応召出発行事と同断。
佐藤・川村・後藤・福島・宮野・関谷・後藤の諸氏7名。村長が応召兵歓送のため網走まで出張。

■昭和12年9月1日（水）
杉山書記補が応召中の所、解除されて帰村。

■昭和12年9月3日（金）
村長・在郷軍人常呂分会長が旭川の壮行会に参列のため、午後5時40分で出発。

■昭和12年9月5日（日）
午前7時より飛行機献納のため、古雑誌荷造りを全吏員並びに青年団員6名でこれにあたり、午前11時半終了。
午後5時より常呂小学校で、未教育補充兵の教育を実施。
婦人会が登位加・手師学方面の応召家族慰問。

■昭和12年9月6日（月）
収入役が婦人会員と西川沿・岐阜・鎧沸方面の応召兵・戦傷兵家族慰問。
午後5時より7時まで、常呂小学校で未教育補充兵の訓練。

■昭和12年9月7日（火）
旭川の壮行会に参列・出張中の村長が帰村。
午後5時より7時まで、常呂小学校で未教育補充兵の訓練。

■昭和12年9月8日（水）
午後5時より7時まで、常呂小学校で未教育補充兵の訓練。
常呂座（常呂劇場）で国防献金募集のため、素人芝居開催。

■昭和12年9月9日（木）
未教育補充兵の訓練は前日同断。
国防献金防臭のため素人芝居、前日同断。

午後9時5分、動員下令の予報あり。応召急使は明朝一番列車で到着する予定。下令員1名、予備役兵佐藤一等兵。

■昭和12年9月10日（金）

未教育補充兵の訓練は前日同断。

■昭和12年9月11日（土）

三浦応召兵出發。午後0時、常呂神社で祈願祭執行、午後1時半出發。在郷軍人常呂分会、国防婦人会、多数見送り。渡辺書記が網走まで見送り。未教育補充兵の訓練は前日同断。

■昭和12年9月12日（土）

今次動員による応召兵、佐藤氏は午前8時17分に出発。神社で武運長久を祈願。駅前の行事はこれまでと同断。渡辺書記が卯原内まで見送る。

■昭和12年9月15日（水）

女満別より雑誌運搬トラック来村。（飛行機献納）

■昭和12年9月28日（水）

応召兵工藤・大間両氏が午後5時40分発の列車で出發。

■昭和12年10月2日（土）

午後7時より吏員の妻女全員で、本村出身の出征兵士に贈呈する慰問袋を調製、午後9時終了。

※「ウェブ版 NHK戦争ミュージアム 日中戦争とは？」から抜粋・転載

*7月26日から始まる「当直日誌」の記述は、日中戦争の開始と密接に関わっています。

日中戦争の始まりのできることはどんなことがあったのかを、「ウェブ版 NHK戦争ミュージアム 日中戦争とは？」を参考に、基本的な事項を追加しました。

昭和12年7月7日、支那駐屯軍の部隊が、北京駅から西におよそ20km、盧溝橋という歴史ある石橋の周辺で夜間演習を行っている時のことでした。十数発の銃声が鳴り響き、急ぎ点呼を取ったところ、1人の兵士の行方がわからなくなりました。

誰が発砲したのかはわからず、兵士はすぐに発見されました。しかしその後散発的に銃声がつづき、連隊長は「純然たる敵対行為」と判断、中国軍を攻撃しました。これが、日中開戦のきっかけとなった「盧溝橋事件」です。当初は偶発的な小競り合いとも呼べるものだったのです。

戦火を拡大させた2つの事件

その後、現地で停戦協定が結ばれるなど、沈静化の動きと小規模な衝突が繰り返されませんが、2つの事件をきっかけに、西国関係は最悪の事態へと進んでいきます。「通州事件」と「大山事件」です。

溝橋事件から2週間後、北京駅から東へ20km、ちょうど盧溝橋の反対側にある通州で、事件が起きました。日本軍の補助部隊であった中国人の治安部隊が反乱を起こし、現地在住の日本人と当時日本の統治下にあった朝鮮の人々、およそ260人を殺害したのです。この事件を新聞は「罪なき同胞を虐殺」「鬼畜！臨月の腹を蹴る」などと報道、対中国感情は悪化していきました。

8月9日には、上海に常駐していた海軍特別陸戦隊の大山勇夫中尉らが殺害される事件が起きました。海軍からの要請を受けた陸軍は、現地に住む日本人の保護を目的に、上海などにおよそ30万の派兵を決定。日中双方が航空機による爆撃を行う事態となりました。

(以下略)